

◆森岡（もりおか）さんのプロフィール

豊後大野市に静岡県富士宮市から1
ターンの平成9年に入植し、有機JAS水
稲150a、有機農法実践畑150aで年
間約50種類の野菜、しいたけを栽培し、
経営。
大学卒業後、海外青年協力でタンザニ
アで4年間活動し、平成元年、28歳の時
に富士宮市で有機農業に取り組み始め、
10年目に周辺地域の宅地化が進んだこと
から、大分県の説明会を受講し、現豊後大
野市に移って来た。Iターンで大分県内に
新規就農した5人と「むぎわらぼうし」を
結成し、大分市内の会員へ有機野菜の宅
配・販売している。民泊を利用する人や研修生
を受入れていた。



森岡さんご夫婦

◆有機農業を始めた動機

高校時代に自然農法の本を読み、興味を
覚え、大学では農学部に進み、卒業と同時
に海外青年協力を隊員としてタンザニアで
動の経験をもち、帰国後、富士宮市で有機
農業を始め、10年の間に、周辺が宅
地開発され、有機農業が難しくなり、豊後
大野市に大分県の紹介で平成9年に入植し
た。現在、おいた有機農業研究会から認定
をうけている。

◆有機農業体験民泊（WWOOF制度）

ウーフと呼び、有機農家で農作業を行
い、無料で農家に宿泊する制度。
7年前から実施し、今までに外国人を含
めて70人ぐらいいが利用。
ホストに登録し、利用者の事前申し込み
に対し、農家の判断で断ることが出来る。

◆経営技術対策

あいがもを利用して米を150aで生
産、また、黒米を道の駅「原尻の滝」で販
売している。
昨年、初めてウンカが発生した。近く
にあるものを使うようにしており、雑草、
近くの農家の牛ふんに鶏ふんを加え、土壌
菌でボカシ肥としてたい肥を製造してい
る。にんじんやごぼうを自家採取して、利用
している。

◆病虫害対策

土づくりをきちんとすることで、病虫害
の発生が少なくなる。有機農法は生態系の
確保するという意味で重要である。

◆苦労している点

有機農業に取り組むと、雑草とのつ
きあいが長くなる。ただし、敷草として活
用できる。
販売ルートが限られていることから、有
機農業や有機農産物のPRが重要である。
後継者の確保が出来ていない。

◆消費者との交流

毎年、米の購入家族との田植えやかぼす採
り、秋の収穫祭では、芋掘り、餅つき、あい
しも鍋などの行事に30名ほどが参加。チラ
シを宅配時に配布。

◆これから有機農業を
やりたい人へのアドバイス

有機農業を始める場合には、自分の信念を持っ
てやるのが大事である。人に流されないよう
にする。有機米を買ってくれる消費者には、自分
生産の考え方を説明し、納得してくれた方々が
買ってくれている。
有機農業は金儲けではなく、食べる楽しみ、自
分の人生を楽しく生きていくこと。
3年間は色々挑戦し、5年目になると自分の
スタイルが出来る。

ほ場の写真
(ブロッコリー)



(ナス)

◆今後の抱負

自然農法的な考えをこれから行い、近くにあるも
のを有効利用して地域の環境を守りたい。

◆主な販売先

主に、大分市内の消費者向けの宅配事業を「むぎ
わらぼうし」の会員5名で実施。一部、道の駅での
販売。

お問い合わせ

電話・FAX

0974-4213501